

## 第 15 回 東京芸術文化評議会 議事要旨

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 14 日（水曜日）午前 11 時から正午まで
- 2 場 所 都庁第一本庁舎 7 階大会議室
- 3 出席者 杉本評議員、野村評議員、花柳評議員、平田評議員、福原評議員、  
宮田評議員、森評議員  
逢坂専門委員、片山専門委員、菅野専門委員、草加専門委員、後藤専門委員、  
長田専門委員、中村専門委員、大和専門委員、吉本専門委員  
秋山副知事
- 4 議 事 オリンピック文化プログラムについて
- 5 報 告
  - (1) 「東京文化発信プロジェクト」事業評価について
  - (2) 「アーツカウンシル東京」の発足について

### 6 発言要旨

**○福原会長** 皆様、おはようございます。ただ今より第 15 回東京芸術文化評議会を開会いたします。

本日は安藤評議員、蛭川評議員のお二人が欠席でございます。そしてご案内のとおり、石原都知事は先月末をもって退任されましたので、本日は生活文化局を所管する秋山副知事にご出席をいただいております。よろしく申し上げます。

それでは早速ですが、事務局から本日の資料について説明します。

**○関部長** お配りした資料についてご説明申し上げます。資料 1 はオリンピック文化プログラム、資料 2 は伝統芸能検討部会における検討内容をまとめた資料でございます。次の資料 3 は東京文化発信プロジェクトの平成 23 年度事業評価のまとめ、資料 4 はアーツカウンシル東京の発足についてのご報告資料でございます。以上です。

**○福原会長** ありがとうございます。本日の議事はお手元に配布した議事次第のとおりでございます。オリンピック文化プログラムについては、招致戦略にかかわる内容ですので、運営要綱に基づいて非公開といたしたいと存じますが、いかがでしょうか。

**○全員** 異議なし。

**○福原会長** 特にご異議はないようですので、そのようにさせていただきます。

では、次第に沿って会議を進めてまいります。

《非公開》

次に報告ですが、「東京文化発信プロジェクト」事業評価についてです。事務局から説明をいただきます。

**○関部長** 平成 23 年度東京文化発信プロジェクトの事業評価でございます。こちらにつきましては毎年度、評議会のほうで報告させていただいております。フェスティバル、キッズ・ユース、東京アートポイント計画、ネットワーキングの4つの柱で事業を展開してまいりました。

その中でフェスティバル事業でございますが、世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信という目標のもと、「東京発・伝統WA感動」や「東京大茶会」といった伝統文化を国内外に発信するための事業や、「フェスティバル・トーキョー」「恵比寿映像祭」「六本木アートナイト」といった大規模なフェスティバルを展開してまいりました。国際的なフェスティバルとして定着し、創造・発信のプラットフォーム形成に寄与しているという評価をいただく一方、既存の枠にとらわれない新しい取り組みの検討も必要であるというご指摘もいただきました。

次にキッズ・ユース事業でございますが、芸術文化を通じた子どもたちの育成を目指しまして、「キッズ伝統芸能体験」や「パフォーマンスキッズ・トーキョー」など5つの事業を実施してまいりました。本物を体験できるプログラムとしての高い評価をいただいた一方、事業成果をより広範に知っていただくような手法や、体験の機会を増やす方策について検討すべきという意見もいただいております。

地域で文化を創造する東京アートポイント計画につきましては、地域の商店街や多様な団体との連携によりまして 20 事業を実施してまいりました。それぞれの魅力ある街の個性を生かした地域に根差した事業展開がなされていること、それに伴いプロジェクトを担う人材育成が図られているという評価をいただきましたが、一方で継続的な運営のための仕組みづくりと、効果的な広報展開を検討すべきというご意見もいただいております。

昨年からは開始したネットワーキング事業でございますが、震災後の社会のあり方を模索する国際会議を開催するなど、国際的なネットワークの足がかりになったとの評価をいた

できました。今後はより一層、国際ネットワークを持続、発展する仕組みを検討すべきと  
のご意見もいただいております。

文化発信プロジェクト全体としましては、プロジェクト全体の認知はされつつあるが、  
発信力についてはまだ不足しているとの評価を受けております。今回、ご指摘いただきま  
した事項につきましては、今後の事業展開に反映をしてみたいと考えております。

**○福原会長** 東京文化発信プログラムは展開中の事業ですが、何かご意見はございますか。  
よろしいですか。

それでは進ませていただきます。東京文化発信プロジェクトはこの評議会でもかなり論議  
していただいたところでもありますので、平成 20 年度から始まって 5 年目を迎えていま  
すが、さらに東京の顔として世界に対する発信力を強めていく必要があると思いますので、  
今の発信力という大きな問題がまだ残っているわけですが、それを含めて引き続き頑張っ  
ていただくようお願いする必要があると思っています。

次に報告の 2 番目ですが、「アーツカウンシル東京」が発足しました。これは大変大き  
な出来事であると私は考えておまして、事務局から報告します。

**○関部長** 昨年 10 月 27 日の芸術文化評議会が発足について決定いただきましたアーツカ  
ウンシルでございます。この 11 月 1 日をもちまして、日本では本格的なアーツカウン  
シルとしては初めてとなりますが、正式に発足いたしました。当日は福原会長等からもご挨拶  
をいただきました。

具体的なスタートとしては右側でございますように、機構長以下 7 名の専門スタッフを  
配置するとともに、お手元の配布資料に記載したカウンシルボードでございますが、各界  
の有識者等で構成される委員など 8 名の方にご就任いただきました。これらの体制に基づ  
きまして東京の文化の創造的発信の一翼をアーツカウンシルが担ってまいりたいと考えて  
おります。

**○福原会長** 経緯を振り返りますと、最初はブリティッシュ・カウンシルみたいなことを  
イメージして検討を始めたということも事実ですが、その後、東京あるいは日本、あるい  
は日本の中の東京の実態を踏まえて、今一番必要なことをこれから少しずつやっていこう  
ということで、ボードの方々もすばらしい方々にご協力いただきました。

文化庁ではまだアーツカウンシルがあるような、ないような状況で、実際に活動はまだ  
まだ始まったところですし、地方自治体としては唯一ということですので、この成功の如  
何によって日本の文化の将来を占うこととなりますので、ぜひ機構長には頑張っていた

く必要があると思っています。そしてまた私たちはそれに対してできるだけの応援をしたいと存じますので、アーツカウンシルの途中経過も含めて折々皆さんに聞いていただきたい、あるいはご意見をいただきたいと思っています。それで東京の文化政策を支える実行機関になりますので、私たちが協力をしなければならないし、またアドバイスもしなければならないと考えておりますので、どうぞこのようにご認識いただけると幸いです。

駆け足で来てしまいましたが、他にご意見はございますか。

**○宮田評議員** 先ほどから秋山副知事のお話でも、オリンピック招致の盛り上がり弱いということですが、家庭に例えて考えると、お父さんは給料さえあげればいい、お母さんが一番熱心になるのは子どもの教育なんです。その教育がもしオリンピックとつながっていたらどれだけ皆さんの家族の中で一生懸命になるかというのがあって、その辺のところの仕組みを考えると、今までロンドンでも全くやっていないという気がするので、その辺を早急に知恵を出す必要があるかなと思っています。

その教育のところを見ていますと、今、福原会長から文化庁という単語が出たので、皆さんに応援をいただきたいのは、文部科学省で初めて文化芸術に対して 10 億の予算をつけたいということで、財務省と折衝しているのですが、なかなか難しい。文化庁指導のもとにやっていく路線ですが、財務省に言わせれば、文化庁の仕事は教育ではない、小さな文化団体に資金提供することに意義があるという話でした。プラス、教育系の大学とかそういう組織のあるところに資金提供することによって、大きな文化の力を得られるというようなところがあるかもしれない。今、浮き沈み、ちょうど怪しい流れですが、ここで一気に盛り上げていけば、より、先ほど野村先生のお話にもありましたように、後継者がいることも、若者を常に動かしている、大きな支援になるのかなと、そのように思います。

**○福原会長** ありがとうございます。確かにそうですね。文部科学省はどうなのでしょうね。ご存知ですか。

**○宮田評議員** これは私が言う話ではないと思いますが、もう一步踏み込んでもらいたいなという気がします。むしろ東京都から文部科学省に、金を貸せ、ぐらいの気持ちがあつてほしいですね。

**○福原会長** どうですか、秋山さん。

**○秋山副知事** 都といたしましても、文部科学省と様々なつながりを持っておりますので、今のお話をとても大切だと思っておりますが、教育を一つメインに据えるというのはおつ

しゃるとおりです。

**○福原会長** それから宮田評議員は学長でもいらっしゃるの、大学関係のグループの方にどうやって働きかけるかということもあるのではないのでしょうか。

**○秋山副知事** おっしゃるとおりです。ぜひその辺は大分固めておりますので、ぜひとも今度はそういう意味では地方自治体からも声をあげていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

**○福原会長** 他にございませんでしょうか。せっかくの機会ですから、何かあればご意見を賜りたいと思いますが。

**○平田評議員** 2点ございます。今の教育の話ですが、やはり先ほどの数値目標とも関わってくるのですが、やはり格差が広がってきておりまして、劇場に来られない子ども、来られない家庭もあるわけですね。ヨーロッパの主要な文化政策の一つとして文化で社会包摂をするというのがありますので、やはりそういう子どもたちとか、あるいは東京に住んでいる外国人の子どもたちにも、きちんとそういうものに触れる機会を東京都は提供していますよ、という姿勢をしっかりと見せることが重要ではないかと思います。

もう一点は、例えば六本木アートナイトは大変すばらしいですね。ところがアートの場合には残念ながら来る人は楽しむんだけど、全体に広がらないというところが宿命にあると思います。東京マラソンのランナーは3万人とか5万人だと思いますが、都をあげてのイベントという雰囲気は定着していますよね。これは前にも申し上げたと思いますが、アートナイトの夜は地下鉄を24時間走らせるとか、そのぐらいの思い切った施策で街全体を、それから行政の本気度が試されているのだと思います。要するに、アートをアートの部分だけでやっているのではだめで、それは警察も交通局も動かして、その日は文化の日ですと。東京マラソンの日は明らかにスポーツの日になっているわけですよね。そういう縦割を廃した都庁全体で盛り上げていただくような施策がぜひとも必要なのではないかと思います。

**○福原会長** ありがとうございます。私もパリのことしか知らないのですが、パリはそうなのですよ。

**○平田評議員** はい、24時間。改札には誰も人がいなかったの、あれは多分、無料だと思います。

**○森評議員** 「六本木アートナイト」は、今度で4回目なのですが、毎年少しずつ改善されていることは事実でございます。でも電車を動かすというのは各駅もあるし、なかなか

大変らしいのですが、時間を延長するなど、毎年の工夫は見られるのですが、やはりパリのようにまではいかないで、もっと広域に広げて、一般の人が何時に来ても帰れるようにしたい。来てしまったらもう帰れない、どうしよう、という場合が多いので、その辺はおっしゃるとおりぜひもっと全面的に応援していただきたいなと思います。

**○福原会長** 皆様のご意見をいただきまして、そろそろ時間になったんですが、秋山副知事にせっかくお越しいただいておりますのでお願いします。

**○秋山副知事** オリンピックにつきましては一生懸命にやりますので、何とぞご協力をお願いしたいと思います。アートナイトは先ほど森評議員からのご指摘のように、少しずつ改善しているというのは事実ですが、都市構造がやはり東京とパリは違いますので、都営線だけ動かせばそれで十分かという議論もあります。もちろんテクニカルの問題もあるということで、また事務局のほうと一緒に、よろしくお願いします。

**○福原会長** 確かにそういうこともあるわけですね。というわけで当面の問題はオリンピック招致に向けて国民の支持率をどう高めるか、国民の関心、あるいは参加、支持率をどう高めるかということが喫緊の話題であるわけです。そして従来の延長であります、伝統芸能の継承・発展をどうするか、あるいはそればかりでなく東京都の芸術文化活動の世界に向けての発信をどうするかという非常に大きな問題が残されているわけですが、今後ともどうぞ皆さまのご協力をお願いしたいと思っております。よろしくお願いします。

それでは本日の第 15 回の東京芸術文化評議会をこれで閉会させていただきます。今後ともよろしくお願いします。